

答 辞

ご来賓、先生方や職員の皆様の祝福に包まれて、本日、環境職藝科の全員が無事卒業の日を迎えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

今、この二年間を振り返りますと、さまざまなことが脳裏をよぎります。入学当時、大研修室において学院の基本理念や沿革、そして学科と技能指導に当たられる先生やマイスターが情熱をもつてカリキュラムを説明されるのを、胸を躍らせて聞き入っていたことがつい先日のことのように思われます。

その反面、この二年間の季節の移り変わりと共に、次々と展開される実習や視察研修に必死の思いで取り組んできたことを一齣一齣紐解きますと、とても長く感じられ、これまでの人生の十年余りにも相当するような気もいたします。それだけ、内容が充実していたということでありましょう。

庭園史や造園設計製図、環境生物生態、文化史等の理論を学び、作庭や庭園管理の技能を実習させて頂いたことは、物事を観る視野をひろげ、また京都の名園を巡る研修旅行、造園会社へ赴いての校外工房実習、一般家庭での剪定、雪吊り、庭づくり、公園での土壌改良、建築・環境合同の合科ワークショップ（開ヶ丘キャンパス計画）等はどれも貴重な体験となりました。

要領が解るに従い、その目指す技術の深さと難しさを思い知らされ、たじろぐこともしばしばでしたが、その都度、マイスター方から温かく、適切な助言を頂き、なんとか乗り切って参りました。

当学院での生活は、勉学のみではなく、さまざまな経歴を持つ異世代の仲間達と、職藝祭での模擬店出店、設計・模型製作での徹夜作業など、時の経過と共に交流を深めることができ、楽しいものになりました。

また、飲み会、マイスターのお宅でのバーベキュー等は、授業では見られない先生方の人柄に接することができ、さながら、人生学校の様相が感じられました。

溪流に降り立って、水の流れや岩の状態をスケッチしたこと、森林の中に入って植物の分布・常緑樹や落葉樹、菌類や微生物の共生関係を観察したこと、古式に則った職藝仕事始の儀・職藝道具納の儀を通じて、自然を尊ぶ日本文化に思いを致し、敬虔な気持ちを抱くこととなりました。

私達は、いよいよ学び舎を巣立ち、新しい世界へ飛び立って参ります。

先生方からいただいた数々の教えは、それぞれの未来を切り開くうえで、大切な地図となりました。これを基に、今後、一層の研鑽を積み、社会に貢献して参る所存であります。これからも、引き続き、温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日ご列席の来賓各位、並びに諸先生方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますと共に、職藝学院のますますのご発展を祈念申し上げます、答辞といたします。

平成二十年三月二十日

職藝学院 環境職藝科

卒業生代表

稲垣喜夫